



アマチュアオーケストラ

# 新交響楽団第231回演奏会

The New Symphony Orchestra — 231st Concert

指揮：寺岡 清高

TERAOKA Kiyotaka, conductor

## ニコライ 歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲

Otto NICOLAI (1810-1849): Overture to the Opera "The Merry Wives of Windsor", 1849

## ベートーヴェン 交響曲第1番ハ長調

Ludwig van BEETHOVEN (1770-1827): Symphony No. 1 in C major, Op. 21, 1800

## フランツ・シュミット 交響曲第4番 ハ長調

Franz SCHMIDT (1874-1939): Symphony No. 4 in C major, 1933

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

13:00 開場

**2015年10月12日(月・祝)東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演**

Monday, October 12, 2015, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席：¥3,000 A席：¥2,500 B席：¥1,500 (全席指定)

88ペアチケット (お二人様で合計88歳以上のお客様は合計金額から1,000円を割引させていただきます。下記コンサートイメージのみ取り扱い)

チケットのお申し込み・お問い合わせ：コンサートイメージ03 (3235) 3777 \*10:00～18:00 (日曜・祝日を除く)

チケットのお申し込み：チケットぴあ：0570 (02) 9999 <http://t.pia.jp/>

東京芸術劇場ボックスオフィス：0570 (010) 296 \*10:00～19:00 (休館日を除く)

(PC) <http://www.geigeki.jp/t/> (携帯) <http://www.geigeki/i/t/>

0570で始まる電話番号は一部携帯電話・PHS・IP電話では受付ができません。

\*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

\*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください (予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyo.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

## ウィーンにこだわる指揮者 寺岡清高

今回の演奏会では、指揮に寺岡清高を初めて迎えます。早稲田大学文学部を卒業後、桐朋学園大学を経て1992年よりウィーン国立音楽大学指揮科で学びました。早稲田大学交響楽団ではコントラバスを演奏していましたが、指揮者への想いを断ちがたく専門家への道を目指しました。今はウィーンに在住し、ヨーロッパ各地のオーケストラに客演するほか、2004年からは大阪交響楽団の正指揮者に就任し現在は同楽団常任指揮者を務めるなど、国内でも活躍しています。

その音楽への情熱と真摯なアプローチから紡ぎ出される音楽は、説得力を持って心に響きます。

世紀末ウィーンといわれる19世紀末から20世紀初頭に作られた音楽、特にマーラーや新ウィーン楽派の陰に隠れたシュミットやハンス・ロット、ツェムリンスキーなどの曲を積極的に取り上げるなど、ウィーンにこだわった活動をしています。その寺岡との初めてのコンサートに、ウィーンにちなんだ3曲を選びました。

### ウィーンゆかりの名曲を2曲

ニコライは、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の創設者としても知られています。「ウィンザーの陽気な女房たち」はシェイクスピアの書いた喜劇。主人公である大食漢の老騎士ファルスタッフは、同じくシェイクスピアの「ヘンリー4世」の登場人物で、エリザベス女王が気に入り「彼の恋物語を見たい」と書かせたのがこの戯曲と言われています。勘違いして2人の裕福なご婦人に言い寄るも、逆に懲らしめられてしまいます。この喜劇はウィーンフォルクスオーパーの十八番でもあり、美しい旋律の軽快で明るい序曲は、演奏会にもよく登場します。

音楽の都ウィーンと言えば、やはりベートーヴェン。9つの交響曲を書いています。記念すべき第1番は29歳の時、七重奏曲やピアノソナタ「月光」などと同じ時期で、すでに人気作曲家となったベートーヴェンが満を持して書いた作品。同じウィーンのハイドンやモーツァルトといった古典派の技法を取り入れつつ、独自の意欲的な試みもみられ、若々しく生き生きとした交響曲です。

### 後期ロマン派最後のシンフォニスト

そしてフランツ・シュミット。シェーンベルクと同じ1879年の生まれで、シェーンベルクが12音技法の道に行ったのとは対照的にいかにもロマン派的な交響曲を4つ残しており、古風な面と斬新な響きを併せ持っています。シュミットはウィーン音楽院にて作曲とチェロを学び、ウィーン宮廷歌劇場のチェロ奏者を務めていました。

今回演奏する第4番は、シュミットの一人娘が亡くなり追悼のために書かれた作品です。哀愁のある旋律が魂を揺さぶり、リズムが胸を打ちます。

作品は素晴らしいのにあまり演奏されない作曲家ですが、再評価され少しずつ演奏機会が増えてきました。きっといつかブレイクする時が来ると思います。是非聴いてみてください。どうぞお楽しみに！(H.O.)

## 今後の演奏会予定

<第232回演奏会>

2016年1月24日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 湯浅卓雄

曲目 エルガー／交響曲第2番 他

<第233回演奏会>

2016年4月10日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 飯守泰次郎

曲目 マーラー／交響曲第2番「復活」 他

<第234回演奏会>

2016年7月10日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 矢崎彦太郎

## 新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・故芥川也寸志の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展(1976年にサントリー音楽賞を受賞)、ショスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ(故山田一雄指揮、1979~90)、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏(故石井眞木指揮、1993)、伊福部昭米寿記念演奏会(2002)、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演(高関健指揮、2004)、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演(飯守泰次郎指揮、2006)など、幅広い活動を積極的に展開しています。

## 維持会のご案内 ~良いお席を安く~

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券(どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能)を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座：00130-0-28074「新交響楽団維持会」

## 団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail：shinky@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時~9時、東京芸術劇場(池袋)、クラシック・スペース☆100(大久保)他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、託児施設だっこルームをご利用いただけます。利用日の運営事務所1営業日前正午までにご予約ください。~1歳2,560円、2歳~6歳児2,160円。お申込み・お問合せ：小学館集英社プロダクション03-3981-7003(平日10:00~17:00、土・日・祝日休み)